

発行：明治大学校友会清瀬地域支部 発行責任者：永代 達三

編集：広報部 印刷：(有)スガハラ印刷



令和6年11月30日 多摩湖ウォーキング

令和七年度を迎えて

支部長 永代 達三(昭48政経)

今年はい年、様々な課題に対して脱皮を繰り返しながら少しでも成長していきたいと考えています。

最近の経済環境は円安等による物価上昇により、賃上げがあるものの、実質賃金の減少が続いています。特に年金受給者は物価が上昇した分、年金支給が追いつかず厳しいものがあります。

厳しい環境の中ですが会員皆様のご協力とご支援を得ながら楽しく校友会活動進めていきたいと考えています。これまでに令和六年度の活動計画を順調に実施出来ましたことは、会員皆様のご協力のためものと感謝しております。

また、令和六年度実施いたしました「サポーター募金」では多くの会員の皆様のご理解とご支援をいただき、財政の立て直しの初年度となり、今後の見通しが付いたことに、厚く御礼申し上げます。「サポーター募金」につきましては今後も継続していきたいと考えています。

今後、地域支部活動に一人でも多くの会員の方はもちろん、地域の方にも参加していただけるよう努力していく所存です。

皆様からの校友会活動に対し、ご意見をいただけることを心よりお待ちしております。

また、引き続き今後も組織の活性化のために、新たな会員の獲得を目指していきたいと考えています。

特に女性、若手の会員の参加は組織にとつて必要です。皆様の引き続きのご支援をお願いいたします。



令和六年度の活動及び今後の活動について

清水 計明 (昭53商)

令和六年度の校友会活動を振り返ってみたいと思います。

昨年(令和五年度)の定時総会は、多摩支部及び東久留米支部から来賓をお迎えし、他支部の状況等も伺いつつ実施することができました。

定例の月一回の懇談会は、八月、一月を除き開催し、校友会のイベント企画、ホームページの充実等に加えて、校友会の拡大と維持のためにどのようなことができるのかを真剣に話し合ってきましたが、校友会員の減少が止まらない為、令和六年度から年会費に加えてサポート募金制度を創設しました。

「紫紺句会」は、昨年十周年を迎え百回を超える節目の年となりました。残念なのは、「石田波郷俳句大会」の一環として、長年にわたり市内の小中学校へ俳句の出前授業等の地域貢献活動を行ってきましたが、諸般の事情により活動を終えたのは残念でなりません。

ホームページには毎月、特選句一句、個人句一句を掲載し、充実を図っております。

また、「篆刻教室」は、発足三年目になり、十一月の清瀬市民文化祭に作品を出展することができました。

九月には「屋形船クルージング」を実施し、好天に恵まれ総勢十二人が参加し、天ぷら料理付貸切の屋形船で東京湾周遊を満喫しました。

十一月には、「多摩湖ウォーキング」校友七人、一般市民十五人の総勢二十二人全員が晩秋の多摩湖を完歩しました。

十二月には、「ラグビー明早戦観戦」清瀬支部から校友

六人が参加。残念ながら負けましたが、闘志あふれる熱戦を観戦しました。

一月には、「野鳥観察会」が金山緑地公園で開催され、校友会から七人、校友会にかかわりのある方二名、総勢三十人が、青空の下、三十六種類の野鳥を確認しました。

本年五月二十五日(日)には、「清瀬地域支部第十四回定時総会」を予定しており、多くの校友のご参加をお待ちしております。

「地域密着型校友会」を更に充実してまいりたいと思います。皆様のご協力、ご支援の程宜しくお願いを申し上げます。



令和6年5月26日 第13回定時総会



令和7年1月25日 野鳥観察会 於 金山公園

明早戦ラグビー観戦記

清水 計明 (昭53商)

昨年十二月一日(日)、快晴の国立競技場にいた。今回は、体育会準硬式野球部の同期三人も全国各地より集合し、一緒に観戦することになった。清瀬地域支部からは、気賀沢さんと気賀沢さんの友人の合計六人でキックオフ一時間前にバックスタンド正面やや左側、前一列目

に陣取った。多摩支部全体では百四十人が応援に駆け付けた。

開始早々、明治が早稲田陣に攻め込み、十分近く攻め続けたが、粘られてトライに繋がらず、嫌な予感がよぎった。先制したのは早稲田であった。しかし、その後モールから二下ライを奪って一時逆転した。

一進一退の展開は後半も続き、ロスタイムでトライを奪えば明治が逆転勝利という場面だったが、ゴールラインを死守した早稲田に二十四対二十七で競り負けた。

最後まで緊迫した両者の持ち味の出た、見ごたえのある試合であった。この日の入場者数は四〇、五四四人で、二〇二二年から明早戦が国立競技場に舞台を移した後は、最高入場者数であった。

その後、同期三人と二学年、三学年下の後輩二人も合流して新宿の居酒屋に移動した。残念会とはなったが、試合内容を振り返ったり、大学時代の昔話に花を咲かせたりして盛り上がり「来年も国立に集まろう」とリベンジの再会を誓った。



会場は熱い声援が溢れていました



気賀沢さんも合流



準硬式野球部同期と観戦

島崎光さんを偲んで

中村 曠 (昭36政経)



清瀬地域支部創設メンバーがまた一人旅立ちました。昨年夏の初め、島崎さんから入院の知らせと心配しないようにと連絡がありました。

島崎さんの訃報は暮れのご子息さんからのハガキでした。

島崎さんは清瀬地域支部の創設準備からメンバーの一人として活躍、会員の獲得など基盤造りにご尽力されました。発足後は組織部長として会の運営、特に会員増強にお力を発揮されました。

温厚で優しい静かな語り口は皆さんから慕われ、沢山の指導ご協力をいただきました。

イベント等の行事には進んで参加され、盛り上げていたお姿は忘れられません。普段は俳句を親しみ「紫紺句会」に投句、句会を楽しみに出席されていました。

俳句は、現役時代に勤務した九州から北海道の各地の想い出、特に北海道を詠んだ句、先立たれた奥様と愛するご家族を詠んだ句が多く心を打ちました。

ここに「紫紺句集」に遺されている奥様、ご家族を詠んだ句を掲げ、故島崎光様を偲ぶとともに、これまでに頂いたご指導ご協力ご支援に感謝し、謹んで心からご冥福をお祈り申しあげます。

合 掌

妻と練る温泉めぐり春の夢
妻淹れし珈琲香る春の朝
帽子飛ぶ春一番の妻の顔
柿を剥く娘の手許母に似て
笑ひ顔母に似てきて卒の春



校友訪問⑥

市民文化祭第二回参加の巻

紫紺会篆刻部会 梅狸庵てんく教室主宰

和田 寿文 (昭49法)

昨年引き続き参加した文化祭、一年間日々の努力(遊び?)の成果はいかに：見学した多くの方々や市長も市議も皆さん笑顔に。文化の力はすごい！



永代達三刻 『心月』 心が澄んでいることを清らかな月にたとえた言葉。縦線を多く活用し上手くまとめた

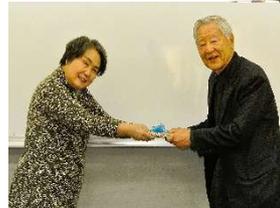


粕川偉三男刻 『櫻雪』 清瀬の自然を四字で表した作品。お孫さんにも伝えたい清瀬の自然を上手く表現



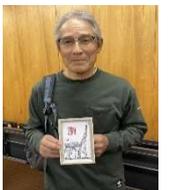
在りし日の

島崎 光さん



篆刻教室に参加されている皆様と集合写真

清瀬駅前アミューで「人生いつだって青春!」、楽しく遊んで(精進?)います。
知らないときは敬遠、知ればドツボにはまり込む篆刻の世界へ。



清水計明刻 『巴里五輪』 ペン画と相まって楽しい作品に。パリ五輪の感動が...。清水ワールド全開



中村曠刻 『晴耕雨読』 得意の四字熟語(朱白二印)で今の気持ちを表現。自作の俳句を添えていい出来栄えに



吉田俊夫刻 『きのとみ』 「しなやかさと柔軟性、成長」という意味合いの言葉を楽しく刻った作品



和田寿文刻 『弄琴明月酌酒和風』 柄に似合わずなんと風流な字句を...



生まれてから子供の頃に見てきた清瀬についての記述

気賀沢 陽一（昭60商）

両親は長野県駒ヶ根市と飯田市の出身でしたが、父親が気象通信所（現在の気象衛星センター）勤務だった為、清瀬市で生まれ育ちました。小学校五年の秋まで長屋のような社宅で暮らしました。社宅の親たちは近所付き合いが大変だったかも知れませんが、子供たちは家族のように楽しく育ちました。

気象通信所は垣根で囲まれ花見も素晴らしくグラウンドやテニスコート、プールも有りました。

幼稚園のバスの運転手さんが校友会会員の山下善男さんでした。清瀬小学校まで畑道を二十五分ほど歩いて通学しました。

思い出に残っている景色は菜の花、麦、茶の木、山羊、肥溜め、春に舞っていたヒバリののような田舎の風景。また気象通信所の周りの畑には五十mの木造の通信電柱が沢山建っていました。

小学校低学年の頃は泥んこ遊びとクワガタなどの虫取りが好きでした。高学年になると夏休みは水泳と野球をよくやりました。

小学校五年秋に校友会の中村さんと同じ地域に転居しましたが運よく転校無しでした。

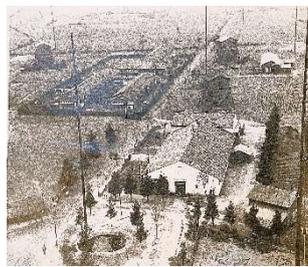
清瀬小学校は五年で第八小学校と別れるまで五クラス、清瀬中学校は一年まで老朽木造校舎で第四中学校と別れるまで七クラス有りました。

清瀬中学校ではバスケット部、小学校六年から高校一年までボイスカウト、小学校六年に隣の家の学芸大附

属小学校の友達に誘われ中学三年までスキー教室に行きました。中学三年の卒業祭では三人で下手くそなギターで歌いました。色々な事をやりましたが、全て中途半端で終わっています。

その後、都立保谷高校、明治大学、就職先勤務地の有楽町と都心へ進出して行きましたが、毎日通った狭い一方通行の道路の北口商店街は、友和堂という本屋、浅井カメラなど記憶が今も残っています。

大学の頃から清瀬の仲間との交流は途絶えていました。が三十七歳頃に復活し現在に至っています。



気賀沢さんが生まれる前に、御父上が高い電柱に登って撮影された気象通信所



幼稚園バスを待つ気賀沢さん

母校見学会・和泉キャンパス

様変わりした和泉キャンパスにて



佐藤 房夫（昭39工）

昨年十一月十八日（月）清瀬地域支部有志七名で母校の和泉キャンパスを見学しました。駿河台キャンパス見学に続く第二弾です。京王線の明大前駅で下車、歩道橋を渡ると正門です。キャンパスは駿河台よりはるかに広く新しい校舎が点在しています。始めに図書館を見学しました。四階あり、各階は本棚が整然と並び、周りは椅子が配置されゆつたりと読書ができます。次にメディア館とラーニング館を見学しました。エレ

ベーターとエスカレーターが完備され、各教室は色々なタイプのおおききがあり、休憩場所や懇談場所がいたる所にあります。

体育館、グローバルビレッジ、第一校舎を巡りました。学生食堂は一階が定食、二階が麺類、三階がカレーとなっていてメニューも豊富でゆつたりと食事ができます。ファミリーマートや三省堂もあります。素晴らしい環境のキャンパスに、我々の時代とは隔世の感があり、今の学生がうらやましくなりました。

（佐藤さんは工学部出。在学中は和泉校舎を経験されておりません）

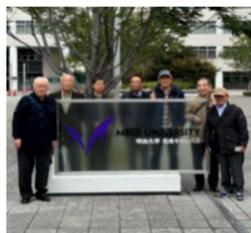


和泉校舎キャンパス

歴史探訪・清瀬

清瀬市北東部ウォーキング

穴田 作道（昭38政経）



正門で集合写真

昨年十月五日、明治大学校友会・国分寺地域支部主催の「歴史探訪（♪大人の遠足）」の一環で、我が町「清瀬」ウォーキングが実施されました。

清戸・下宿・中里地域の名所・旧跡を辿る7kmコースですが、当日はあいにくの雨模様。その節、巡った主な場所を簡単に紹介します。

参加は、七地域支部（立川、小平、武蔵野、三鷹、国分寺、東久留米、清瀬）の校友で総勢二十二名。清瀬は五名の参加でした。

清瀬駅集合後、中清戸の神社を目指しました。

★日枝神社・水天宮を参拜

初詣には露店が並び、お宮参り、七五三祝いなど清瀬で人気を誇る神社ですが、丁度改築工事直前でした。境内には御岳神社も建立されています。

ここから、路線バスで台田団地に向かいます。

★滝の城址公園（所沢市）から市内を望む

台田団地バス停から柳瀬川を挟む対岸には、滝の城址公園の城跡（城山神社）があり、その高台から清瀬最東部の旭が丘団地等が眺望できます。

武蔵野線、関越自動車道、柳瀬川をも眼下にする絶好の位置で、皆さん感動されていました。

★旧森田家主家・円通寺・下宿ふせぎ（行事）を見学

下宿地域市民センターに隣接する旧森田家（野塩から移築）を見学（予約必要）。大広間や籠などに驚かされます。次に近くの円通寺に向かいます。都内では希少な長屋門で有名な寺は、静かな佇まいで迎えて呉れました。同寺から距離を置かない三叉路に、二本の太木を跨ぐように藁づくりの大蛇が架かっています。悪い虫や病から守るための伝統行事の「ふせぎ」です。全国的にも珍しい行事が今も下宿に残されています。（藁の大蛇は清瀬郷土博物館内でも見られます）

その後、曼珠沙華（移）の台田運動公園と柳瀬川沿いを散策しながら、水鳥の遊ぶ金山緑地公園を予定していましたが、降りしきる雨のため中止し、中里の富士塚へ路線バスで移動しました。

★中里の富士塚（浅間神社）に登る

九月に実施される「火の花まつり」で有名な中里の富士塚は、富士登拜の風潮が今に残る空間です。つづら折りの山頂は9mの高さ、小さな祠と大日如来の石碑があ

り、往時の人々の想いを知ることが出来ます。

ここから、ロードギャラリーを鑑賞しながら郷土博物館に立ち寄り、駅での解散となりました。今回は雨のため行程の半分位がバス移動となりました。

しかし、新しい発見を身近に体験する良い機会となりました。



城山神出にて



滝の城址公園から台田方面を望む



中里の富士塚

東京湾クルーズシリーズ⑥

屋形船クルージングに参加して

福島 寛（昭37政経）



昨年九月三十日に六回目となるクルージングに参加しました。今回は屋形船クルージングで屋形船は昨年について二回目です。参加者は明大校友会から八名、市内からの参加者四名の十二名です。幸い天候にも恵まれました。

十時に清瀬駅に集合して浅草まで行き、出航まで一時間程ありましたので、雷門にて自由散策となりました。ある人は周辺散策へ、ある人は仲見世通りから浅草寺へ

のお参りへと別れました。年々外国からの観光客は増え続けていますが、浅草も多めに洩れず、特に仲見世通りは外国からの観光客で、人の行き来もままならない程外国人で埋まっておりました。ここで一句

仲見世は異国のかをり野分立つ

約一時間の散策後、再び雷門に集まり、そこから皆で出航場所まで行きました。船は四十人まで乗れるため中はゆったりしていました。乗船時間は二時間三十分の予定で隅田川を往復します。船中は食事付きで飲み放題のシステムです。出航するとすぐさま揚げたての天婦羅が次々と出され、酒類も豊富でビールや日本酒や焼酎等好きな物を注文出来ます。また飲めない人にもウーロン茶やノンアルコール類が用意されていますので助かります。

船は東京スカイツリーを後ろにしてゆつくりと出航しました。船内のアシスト係員からその都度丁寧な説明があります。永代橋は忠臣蔵でお馴染みの赤穂浪士が通った橋で、今では重要文化財となっているそうです。歴史を感じますね。次の相生橋を通り過ぎると「がすてなーに」という科学館を左手に眺め、まもなく行く豊洲大橋です。左側に豊洲市場、右側に旧オリピック選手村二〇二〇をリノベーションしたマンション群を臨み、レインボーブリッジをくぐるとフジテレビでお馴染みのお台場海浜公園に到着です。ここで船は一休みです。船上の四・五帖程のデッキに昇ってみると、穏やかな風が吹き周りの風景も素晴らしかったです。

帰路の船内はカラオケ会場さながらとなり、皆さんお酒もまわり、いい気分です。東京タワーを眺めながら出発点に戻ります。晴海運河を通り、築地大橋、勝鬨橋、佃大橋、中央大橋、永代橋をくぐると出発点の隅田川テ

ラスに戻って来ました。

丁度天氣の良いお昼時でしたので、アサヒビル本社
の窓ガラス全体に東京スカイツリーが反射しており、金
色に輝く素晴らしい「ゴールドツリー」を見ることが出
来ました。アシスト係の女性によれば、これが見られる
と金運のご利益があるそうです。参加者の皆さんも金運
に恵まれると良いですね。

下船後は浅草駅へ戻り、そこで散会しました。皆さん
非常に楽しい一日だったとおっしゃってられました。



雷門でサチリ!



デュエットを熱唱



多摩湖ウォーキングシリーズ⑫

小春日和の多摩湖路

米倉 保雄 (市内一般参加)



今年もまた十一月最後の土曜日がやってきました。本
年は三十日。この日は明治大学校友会主催による恒例の
多摩湖ウォーキングの日。

退職し暇を持て余していたある日、市報を見ていた妻
から「ウォーキングの募集をしているよ」と勧められ直
ぐ校友会の福島様に電話しました。今年で確か十回目の
参加、途中、風邪などで二度ほど休みましたが、毎年こ
の日が来るのを楽しみにしています

さて、今年のウォーキングは稀にみる小春日和の一日
で始まりました。西武球場前駅の改札を出れば、いつも

の駅前広場では皆さんが待っています。受付を済ませコ
ースへと向うと間も無く遊歩道です。ここがウォーキン
グコースの始点、早くも自転車の人、マラソンの人が行
き交っています。「自転車が来ますよ!」と声をあげて安
全を確かめて歩きます。

赤や黄色で織りなす紅葉を見入りながら少し坂を登る
と、歩道まで飛び出たモミジが一本、また一本と濃淡の
赤に彩った紅葉を見せてくれます。更にそこに陽が当り
紅葉のグラデーション、ここが見どころと立ち止まり見
上げる人、スマホで撮る人、四十分程登ると平らな休憩
場に着きます。遅れた最後尾の方々の到着を待ち、息を
整えてお先に小休止、暑くてフリースを脱ぐ人もチラホ
ラ、再び歩き出し、登り切ったところが天辺の時計台、
ここで集合写真をパシャ、この先は黄色に色づいた紅葉
に変わり視界が開けた緩やかな下り坂、下り切ると少し
遠くに西武ドームが、手前に多摩湖が見えてきます

穏やかな湖面の奥では晩秋の陽を浴びてカモたちが群
をなして泳いでいる。堰堤を渡りかけた時、突然一羽の
アオサギが羽ばたいて頭上を越え向こう岸の葦の茂みに
消える

これもここではいつもの光景なのでしょう。
多摩湖は私達の憩いの場、生き物たちの楽園であり、
何よりも都民の大切な水を蓄える貯水池、先人の偉業の
賜物です

堰堤を渡ると本日のウォーキング六キロコースの終点
私を含めた二十二名の皆様お疲れ様でした。朝の集合場
所で汗を拭いて無事解散、校友会の皆様有難う御座いま
した

最後に明治大学及び本校校友会の益々のご発展を心より
お祈り申し上げます

(米倉さんの子息 お嬢様お二人とも校友。いつも支
援ありがとうございますー編集部注)



出発前の準備運動



錦秋の多摩湖路



新シリーズ 明大スポーツNOW

東京六大学優勝決定戦 明早戦観戦記

柁谷 栄吾 (昭46法)

昨秋の十一月十二日、六大学野球優勝決定戦の明早戦
を観戦しました。八勝三敗で並び十四年ぶりの優勝決定
戦で、私は母校の優勝を信じて五十年ぶりに神宮
球場に行きました。

好天の中、十二時十五分神宮球場に到着、すでに応援
合戦が始まっています。一般応援席券千円で入場しま
したが、応援席は学生と一緒の行動が求められます。校
歌、応援歌、拍手子、声出し、タオル振りなど立ったり座
ったり、忙しい応援席での観戦でした。隣席の私と同輩
くらいの人は心得ていて明大ロゴ入りの紫色のタオルを
持参して振って応援していました。明大父母会埼玉東部
の人たちは揃いのユニフォームで二十人くらい参加して
いました。応援席の人数は明治が早稲田を圧倒していた

ように思います。

試合はご存じのとおり早稲田の圧勝でした。早稲田の投手が良すぎたのに対し、明治投手陣はボールが先行しカウント三二二が多かったです。結果は〇対四の完敗で残念な結果でした。

応援席は昔と大違いで、団長は女子学生、応援団員の半数くらいは女子学生でした。昔の馴染みの「学生注目」、「そーだあ」の音頭も女子団員の何人かが務めていました。チアガールの女子学生は三十数人もいて応援を盛り上げていました。

試合後のエール交換は感動的でした。両校選手が整列して両校の校歌を最後まで聞いていました。宗山主将など選手の顔がよく見え、私は「ありがとう」という気持ちで選手団に向かって校歌を歌いました。応援席が静かに両校のエール交換に協力していました。

【感動的な閉会式】

試合後まもなく閉会式が行われました(写真参照)。私は閉会式を初めて見ました。いつも早慶戦の後が閉会式ですから見る機会は減多にありませんが、今回は優勝決定戦後の閉会式ということで貴重な機会でした。音楽隊の各校応援歌の演奏に合わせて六校選手団の入場行進、表彰式の表彰、連盟理事長の挨拶がありました。理事長挨拶では好試合の二試合が紹介され、その一つが明早二回戦での延長十二回引分けの試合の試合時間史上二番目の四時間半の熱戦を紹介していました。

また、四年生に贈る言葉で、彼らが高校三年生のときに、コロナ禍で甲子園の全国大会中止という無念さを経験してきたことを話しました。とても観客の心にしみる厳かな閉会式でした。

【宗山塁主将の今後に期待】

今シーズン主将を務めた宗山選手は、六大学野球歴代七位の通算安打数百十八安打を記録しました。ドラフト選択会議で五球団の競合の末、東北楽天ゴールデンイーグルスに入団しました。背番号は1です。彼は今年の新入王と将来の日本代表を目指すと言っています。彼の今後の活躍に期待したいと思います。



楽天1位指名の宗山選手(右)



日本ハム3位指名の浅利投手(左)



早大に0対4で敗北



宗山選手はリーグ通算安打数118本 歴代7位 過去には首位打者、大学日本代表にも選出



【紫紺俳壇】

紫紺句会指導

俳句結社「隗」 主宰 細見 道子

靴箱に恋文バレンタイシンの日

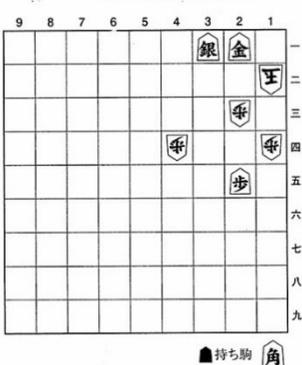
紫紺句会

類ふくら薬香残す紙風船
 正月に庭の花摘み墓に添へ
 白足袋やモノクロームの立ち姿
 義理チョコも本命チョコも縁去りし
 一年の句読点打つ除夜の鐘
 ふうわりと意志あるごとく牡丹雪
 舟唄や雪解け近き最上川
 朝焼けの富士に始まる初暦
 スタートは友に黙祷初稽古
 新年の宴の後の一人酒
 盛り上がる鳩の鼻瘤春立ちぬ

穴田 作道
 永代 達三
 粕川偉三男
 小林 信夫
 佐藤 房夫
 杉山 陽一
 中村 曠
 西尾 修一
 砥谷 榮吾
 村野 良明
 山尾久美子

チャレンジ!

詰将棋(五手詰) 回答は次頁



『みんなの情報コーナー』

★明治大学が山の上ホテルの歴史的な建築物を継承

この度、学校法人明治大学（以下、「本学」という）は、数多くの文豪が利用したこと知られる「山の上ホテル」が建設されている土地及び建物を、二〇二四年十一月十五日付で取得いたしました。二〇二二年（令和十二年）に、本学は、創立百五十周年を迎えます。その記念事業の一環として、本不動産を取得し、再整備を実施します。現状の外観を維持したまま必要な改修工事を施したうえで、専門業者と連携し、ホテル機能を継続させるとともに、学生支援、地域連携、社会連携の機能としても活用ができるよう検討しており、本学の新たなシンボルとして継承していきます。



山の上ホテルの威容



サヨナラ 山の上ホテル

★石田波郷記念館開設25周年記念事業・石田波郷新人賞を清瀬市より移譲―江東区

昨年四月、惜しまれつつ「石田波郷俳句大会」の終了が決議・承認され、一昨年の大会を以て十五年の歴史にピリオドを打つことになりました。

この度江東区が「石田波郷記念館開設25周年記念事業」として「石田波郷新人賞」を清瀬市より移譲され、江東区に継承されることが決定いたしました。

石田波郷ゆかりの地のご縁で引き継ぐこの賞を全国的に発信されます。二〇二五年八月に応募が開始されます。

NPO法人

健康遊技たんぽぽ

○健康麻雀

午前の部	10:00~13:00	600円
午後の部	13:30~16:30	600円
一日の部	10:00~16:30	1,100円

*入会金…1,000円
*年会費…3,000円
☆セットのお客さま大歓迎(要予約)

清瀬駅南口から徒歩1分
清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階
☎042-495-7708

ポスター
パンフレット
会誌・自分誌など

環境にやさしい

(有)スガハラ印刷

〒204-0022
東京都清瀬市松山 2-7-14
TEL 042-492-2210
FAX 042-491-8118
E-mail :
sugahara@sugahara-p.co.jp

篆刻を楽しみま書

「てんこく」は書道芸術の一分野です
頭と手先、フル回転の楽しみ！
『梅狸庵篆刻教室』
『教室』清瀬駅前アミュ―講座室
『日時』毎月中旬の水曜日午前
和田 寿文 (S49法)
bairian510195@gmail.com
042-495-3349
未経験者大歓迎、
お気軽にお問合せを

◎清瀬地域支部の情報は
校友会清瀬のホームページ
<https://meiji-3jimdofree.com/>

ご意見・ご要望をお知らせください！皆様の会報として地域の情報など、どしどしお知らせください。

編集部一同
連絡先：粕川偉三男
kiyose_125@shikon.meiji.ac.jp

この会報は校友会会員皆様の大切な年会費で発行されております。

皆様に、より身近な情報をお届けすべく努力しておりますが、ご満足いただけただでしょうか。会報をより充実させるために、皆様の忌憚のないご意見をお待ち申し上げます。

訃報
故島崎 光様(昭三十一年 商)
ご生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します

詰将棋回答

- ▲1 一金
- ▲3 三角
- ▲2 一角成
- 同 五
- 1 二五
- マズ5手詰

サポーター募金にご協力いただいた皆様(追加)
匿名お一人

(令和七年一月末現在)
紙面をお借りして感謝申し上げます。